

# さくらだより

第27号

2013年10月21日

社会福祉法人京都老人福祉協会 京都市伏見区深草大亀谷東古御香町59番地・60番地 TEL.075-641-6622 FAX.075-641-6633  
<http://kyoro.or.jp/>



## CONTENTS

新任のご挨拶……………2

燕去月……………2

特養  
日々勉強です……………3

リレーコラム  
ストレングスを見つけよう!……………3

特集  
さくらハウス板橋……………4

「サ高住ってどんなところ?」……………5

深草エリア  
稲荷の家 ほっこり……………6

「6」周年ですが……………6

養護  
みんなのちから……………6

きつちんさくら  
秋のお弁当……………7

醍醐エリア  
夏の催事……………7

うづら保育園  
学童クラブ クローバー……………8

編集後記……………8



ハートで  
ぬくもりと安心を  
お届けします  
京都老人福祉協会



### 新任のご挨拶

社会福祉法人 京都老人福祉協会 理事長 三代 修

この7月に社会福祉法人京都老人福祉協会の理事長の命を承った三代修でございます。重責を仰せつかり身の引き締まる思いですが、使命を全うすべく、全力を尽くす所存でございます。

入職して27年、施設の相談員としてご利用者やご家族の思いを受け止める仕事からまずは始まりました。多くの出会いと別れの中で、人が命を紡いで行く事の尊さ、一筋縄ではいかない現実の社会を見、喜びとともに力不足からの歯痒さの中で勤務して参りました。今後は、喜びと使命を役職員のみならず共有して課題を乗り越えて忌まなければなりません。

25年に向けた地域包括ケアの整備が急がれるとともに、少子化による人口減少時代で社会の活力を維持できるのかどうかの剣が峰に立っていると考えています。「みんなが住み慣れた地域で誇りを持って暮らし続けられる」そんな地域社会の発展に法人として寄与していきたいと考えています。

少子高齢化の進行は社会のあり方そのものを根底から変革する事が必要なる状態になっていきます。子育て支援や保育の分野に関わり始めたのはここ数年の事ですが、法人にとってはとても大きな意味がありました。本来、地域の中で支え合いながら暮らししていくという社会の有り様をもう一度福祉の観点から組み立て直して行けるのではないかと気付きました。法人のこれからの行方を左右する問題とも考えています。

子育て支援、障がいをもった方へのサービス、住まいの問題など私たちが取り組みたい地域での課題は山積しています。また、地域への良い貢献をするためには職員全員の高い意欲も必要です。地域でも、職場でも人は尊重されて初めて力が発揮できるものだと考えています。暖かい感情の行き交う地域、職場づくりを目指します。

前理事長の小山孝二郎も引き続き理事として留まり法人の発展に寄与したいと考えております。地域社会に貢献しようと高く挙げた灯りが絶えることなきよう、また、新たなステージを役職員と共に築くことを決意致しております。引き続きご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 燕去月(つばめさりづき)

京都老人ホーム施設長 柴田雄一

旧暦八月の異名が燕去月です。燕達は、毎年日本へ五月頃やって来て、ここ京都老人ホームの玄関先にもカップルで巣を作り、卵を産み育て、せっせと子育てをします。そして、どのヒナも無事に一人前に大きくなり、空を飛び自分で餌をとるようになると、一家五〜六羽で揃って南の暖かい国へ飛び立ちます。そして、巣の中が空っぽになる頃が、初秋の燕去月なのです。

昔の人は、自然や身の回りの季節の移り変わりをきちんと見て、本当に上手に言い表されませぬ。ちよっぴりさびしく、また格調のある言葉。「燕去月」、来年はどんな春を迎えるかな。



### 特養

### 日々勉強です！



『認知症の方の思いを知ろう』というキーワードをもとに、京都老人ホームでは7月から「認知症勉強会」が行なわれました。

京都老人ホームで生活されている方々の中には、認知症をお持ちの方も少なくありません。ひとくちに認知症といっても、症状は様々ですが、我々職員は日頃から認知症の方々と接し、生活を支援させていただく中で、今回の勉強会は、日々のケアを見つめ直す機会となりました。

まず医師からの解説があり、医療的な認知症の知識を学びます。その後講師である主任さんの講義とグループワークを通して認知症について学習します。

認知症を抱える方の不安な気持ちを理解していく事、その方の言葉や行動の裏に隠された思いを知る事、認知症の方と関わる中で重要な事は何かを考え、学んでいきます。

講義を通して我々職員は、利用者さんにとっての環境のひとつであり、どう適切に接するべきか改めて考える事ができました。「今より一層、利用者さんのために頑張っていきたい」とより感じる事が出来る、そんな勉強会になりました。新人の職員はもちろん、ベテランの職員にも、好評でした。この勉強会は現在、全職員対象の取組みとして行なっていますが、近い将来、地域の方々やご家族様も交え、開催される日が来るかもしれません。今後がとても楽しみです。



京都老人ホームに暮らす方々に幸せを感じ生活して頂きたい。そのためにはどうすればいいか。職員全員で考え、頑張っていきます。



### ストレッチスを見つけよう！

東高瀬川センター総括主任 西本房子



京老創立40周年の時に今後京老に望むこと...を聞かれた事がありました。京老、デイと西館が出来ていました。私はこれ以上大きくならないでほしいと書いた覚えがあります。今から考えると何と消極的な職員だったのかと思います。

あれから16年、伏見、深草、醍醐とエリアに分けられ、居宅、包括、小規模多機能、サービス付高齢者住宅、高齢者のみならず保育分野まで事業が展開されていき、伏見の地域に本来の意味での総合福祉施設をめざし住み慣れた地域で安心して住める地域作りに協力出来ていると思います。施設・地域包括を中心に地域の誰もが困った時、相談したい事業所、相談出来る人がいる事は着実にネットワークとして基盤は出来てきたと思います。制度が目まぐるしく変化の中で走り続けてきたように思います。

これからは事業の展開に目を向けながらも一度立ち止まって個々の職員に目を向ける時期かなと思います。私が長く続けてくる事が出来たのは諸先輩方、同僚、年

代や職種は違っても協力出来る職員体制があったからだと思います。今、個々の職員が何を思っているか、何を大切にしているか、利用者に向き合っているのか？事業所が増えれば当然職員も増えます。職員同士の顔の見える関係が難しくなりつつあります。ご利用者の方にパワーをもらって少しでも長く、悩みながらでも継続出来る職場環境、人間関係、強いチームワーク、横の繋がりを持てる京老の強みを生かしているだろうか？と考えます。

ご利用者のストレッチスを見つけ出すことが私達専門職には大切なことです。それと同時に法人のストレッチスを見つけ生かしているだろうか？職員が笑顔で和やかに仕事をしている姿は何物にも代えがたい財産だと思います。京老の強みを生かしていく事でより地域の方に信頼してもらえ法人に成長出来ると思います。これからは私自身も当然ですが、個々の職員がそれぞれ振り返り、立ち止まって考えられる、そんな内面的な成長に期待したいと思えます。





祝 OPEN

サービス付き高齢者向け住宅

# さくらハウス 板橋



住所：京都市伏見区土橋町334-3  
電話：075-605-4039  
ホームページ：http://kyoro.or.jp/

## ごあいさつ

サ高住・さくらハウス板橋のある伏見は、酒蔵があちらこちらに点在し、坂本龍馬で有名な寺田屋などの京都の観光名所、町家の並ぶ古い町並み、風情ある疏水など、歴史と文化が色濃く残る地域です。公共交通機関、商店街や公共施設、医療機関など生活の利便性が非常に高いのも特徴です。サ高住に入居していただいた方には、安心して快適な生活を送れるよう、この地域にある豊かな社会資源や介護サービスなどを有効活用していただきながら、一人ひとりの生活環境や身体状況に合わせた「オーダーメイドの暮らし」をご提案させていただきます。

## 地域との関係について どのように築いていこうかと 思っていますか？

「板橋の町家ほっこり」の取り組みとして、地域・一般の方などが「和喫茶さくら」へお食事にこられる「ランチ」（いつも予約でいっぱいです）や、地域包括支援センター・民生委員さんなどが主催し地域の高齢者の方が「板橋の町家ほっこり」に集まり活動する「サロン」などを毎月実施しています。「サ高住」の住民の方にも積極的に地域の行事に出かけていただいたり、逆に「ほっこり」や「サ高住」に地域の方が気軽に来ていただけるように、サークル活動やイベントを企画するなどして、より良い関係を築いていきたいと思います。

## 高齢者専用賃貸住宅 さくらハウス小栗栖



住所：京都市伏見区小栗栖牛ヶ淵町30  
電話：075-575-2466

さくらハウス小栗栖では、オープンから4年が経過し、施設入所が妥当な状態の方が何名かおられます。しかし併設の小規模多機能をご利用いただくことで別の施設へ住まいを移す事なくなじみの関係を継続したまま看取りのお話をすすめていただいている方もおられます。たとえ要介護状態であっても認知症であつてもなじみの関係を継続したまま在宅生活を長く続けていただける「自宅の自由さと施設の安心」を併せ持つ新しい住まいであると考えています。



和喫茶での食事風景

## 入居された方はどんなイメージで暮らせますか？

元気で活発な方、身体的精神的な障害をお持ちの方、寝たきりの方など、一人一人の状態に合わせて、社会資源やさまざまな介護保険サービスなどを組み合わせ、連携していくことで、できるだけ最期まで「サ高住」の住居に住み続けていただくことを目指しています。

福祉先進国デンマークなど諸外国では「サ高住」のような「高齢者住宅」の普及が進んでいます。「施設」から「在宅」へは世界的な福祉の流れであり、入居者のさまざまな要望や生活スタイルに柔軟に対応できる、という点からも「サ高住」という暮らしは今後も進化し注目されていくと思います。



緊急通報に対応する職員

## 二人部屋があるのはなぜ？

「サービス付き」という安心感と、二人で住める自由な「住宅」というのは、現状の施設ではほとんどありません。今後、団塊の世代がさらに高齢化していられるのに伴い、家族一緒に暮らし続けたい、というニーズは高まると思います。

## 職員目線からの「さくらハウス板橋」のビジョンは？

「サ高住」は全国で飛躍的に増え続けていますが、生活支援サービスの内容もバラバラで併設する事業所によっても、「住み心地」や「生活のしやすさ」はさまざまなようです。

「さくらハウス板橋」は地域に根差したケアの拠点として、他の介護事業所や医療機関、地域の自治会や老人クラブなども連携を取りながら、「頼りになる場所・なくてはならない存在」として高齢者を支えていきたいと思っています。

## 今までの住み慣れた場所から、家を離れ「サ高住」に住居を移す利点は？

住み慣れた場所ですつと生活し続けられるのが理想だと思いますが、身体状態の悪化や認知症状の出現など、「ご本人の状態の変化」にともない、自宅での生活が限界になることがあります。そうなるからだと「施設に入所するしか方法がない」と、他を選択する余地があまり残されていないことがありますし、一般的に施設に入所すると自由はかなり制約されてしまいます。

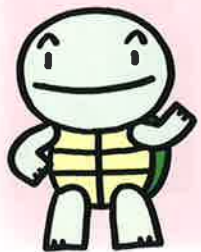
あらかじめ「元気なうち」・「身体状態が安定しているうち」・「認知症状が軽度のうち」にサ高住などの「安心できる住まい」に住み替えておくことで、「状態の急速な悪化を防ぎ」「恵まれた住環境」と「充実した在宅サービス」を併用することで、施設に入所することなく在宅生活を維持できる可能性が高くなります。

小規模多機能型居宅介護・認知症対応型デイサービス・定期巡回随時対応型訪問介護看護など、専門性の高いサービスを「サ高住」に併設しています。

## 「サ高住」ってどんなところ？

「サ高住」とは「サービス付き高齢者向け住宅」の略称です。入居要件として60歳以上の方、もしくは40歳以上で要介護、要支援の認定をお持ちで在宅生活が可能の方が対象となります。

基本的には住宅ですので現在のケアマネジャーさんにご担当頂き、デイサービスに通い続ける事も、なじみのヘルパーさんに来ていただくことも可能です。通常の賃貸住宅との違いは、居室内に緊急呼び出しボタンが複数箇所設置され、トイレや浴室に手すりや設置されていること以外に、相談員が日常常駐しており、安否確認や介護相談、生活相談等を承る事です。その都度ご家族やケアマネジャーさんと連携をとらせて頂きます。また介護サービスを受けておられない方等は手続的なことも含めてお手伝いいたします。





# 草エリア 深

## 稲荷の家ほっこり「6」周年ですが……



こんにちは！稲荷の家ほっこりです。

早いもので今年6月で稲荷の家ほっこりも7年目を迎えることができ、先日、日頃の感謝を込めて「稲荷の家ほっこり6周年祭」を開催しました。当日はご利用者、ご家族、つどいの広場利用の親子さん、地域の皆様と楽しいひと時を過ごしました。

「6年目なのに（節目の年でもないのに……）なんでメモリアル？」という声も聞かれる中、『稲荷の家ほっこりメモリアル』を張り切って作り上げました！ドキドキしながら上映会を迎えましたが、音楽に合わせて今までの写真を見ていただき、「わー！」と歓声や笑いがおきる等皆様に満足していただけたようでほっとひと安心。短いようでやはり色々とおつた6年間だったなあ、皆様に支えられて

今日の稲荷の家ほっこりがあるんだなあ



きっちんさくらの屋台

と職員一同感じています。

その他、龍谷大学のボランティアサークルの皆さんによる人形劇等で盛り上げていただき、最後はきっちんさくらの協力により、手作りたこやきとわたがしをみんなで食べました。お子様から高齢者の皆様までおかわりされているかたもいらっしやり大好評のようでした。

今後も稲荷の家ほっこりは地域の皆様と共に10年…20年と歩んでいきたいと思っております。今後共どうぞ宜しくお願い致します。



龍谷大学ボランティアサークル人形劇

## きっちん さくら 秋のお弁当

秋の配食サービスでは、秋の食材たっぷりのお弁当が提供されます！食欲の秋と呼ばれるほど秋には旬の食材はたくさんあります。そんな秋の食材たっぷりのお弁当と食材を紹介させていただきます！



### 「秋の行楽弁当」

こちらは醍醐小規模の利用者さんに提供されました。栗ご飯に煮物、天ぷら、人参葉のかき揚げ、鱈の塩焼き、焼豚、水菜の湯葉和え、きんぴら、柿なます、紫ずきん、梨、ぶどう、みかんゼリーが入っています。

秋の食材がたっぷりですね。人参も紅葉に見立てて飾ってあり、見た目も秋らしくなっています。四季にはそれぞれ旬の食材はたくさんありますが、秋の食材で作られたお弁当は彩、味、香り、全て楽しめる最高のお弁当です！

### 秋の食材「レンコン」



レンコンは秋の食材です！旬の時期は10月から3月で、煮物や揚げ物にも合う万能な食材です。今回のお弁当にはレンコンのきんぴらに使用されています！このレンコンは、蓮（はす）の地下茎が肥大した物で、古くから食用だけでなく、薬用にも利用されていたそうです。

栄養価はミネラルや、食物繊維、野菜では珍しいビタミンD2を持っています。便通がよくなったり、高血圧、むくみの改善が期待できます！食感が良いのですが、硬い食材なので柔らかく調理して食べると安心して召し上がって頂けます！

## みんなのちから

養護の一日の始まりは朝6時になると、各自居室の掃除を始められます。

この習慣は養護代々受け継がれており、皆さん頑張っておられます。

その中でも、「出来る事があつたらするから」「時間あるしするわ。」と日々業務に追われている職員を見て、入居者さんから頼もしい声をかけて下さる方もおられました。

ある方は、感染症の予防に毎日手すりを消毒して下さります。他には食後の片付けを手伝って下さる方、食堂の椅子が汚れているからと、60脚ある椅子を少しずつ拭いて下さった方、排泄介助の際に使用のおしぼりを毎回準備して下さる方等ご自身で出来る事を見つけて、自主的にして下さいます。まだまだ職員が気付いていない事もあるかもしれませんが、皆さんの「心配り」に感謝しながら、皆さんとともに良い生活の場になるように努めています。



▲調味料やヤカンの回収や拭き等食後の後片付け。



食事の出席の名前が書いたマグネットを元の位置に。

## 養護



◀手すりを毎日消毒して下さっています



暑いなかでの中庭の草抜き。



◀医務室から、ガーゼたたみのお手伝い

## 醍醐エリア

### 夏の催事



夏祭りでの相談ブース

今年も暑い日が続きましたが、皆様夏バテなどされなかつたでしょうか？今回は、7月下旬に参加した地域の夏祭りについてお話ししたいと思います。

近所にある小学校のグラウンドで実施される毎年恒例の夏祭りに夕方から利用者さんと参加しました。春日丘センターは居宅が「介護何でも相談窓口」としてブースを設けて参加。近所の方も多く参加しており、グラウンドは多くの人でにぎわう中、参加された利用者さんの目的は、「食」でした。かあらあげ・焼き鳥・とうもろこし。



フランクフルト等、夏祭り定番の売店があり、利用者さんは、「あれ食べようか、けど噛めへんかもな」と言いながらも、結果しっかりと食べておられました。また地域の子供達も多く参加しており、グラウンドを走りまわる姿を見て、「かわいいな、元気やな」と微笑んで言っておられる利用者さんもありました。その他にも、三味線・フラダンス等のショーもやっていただのですが、ほとんどの利用者さんの視線は、食であり、春日丘センターブースで皆さんお話しされながら食べておられました。約30〜40分ほど参加して、センターに帰りました。「楽しかったな、また連れて行ってや」と皆さん喜んでおられました。ちなみに、帰宅された利用者さん、夕食もしっかり食べておられました。「食」の力はすごいと改めて感じました。これからも季節はめぐっていきます。その中で、利用者さんと一緒にその季節だからこそ感じられる何かを共感していきたいと思えます。





ターザンロープ



おやすみなさい



外で昼食



アスレチック



網の上でトランポリン



川あそび



夕食はカレーライス!!



花火



滝で修行中～



ロングすべり台



## うづら保育園 学童クラブ クローバー

学童クラブ クローバーとは、下校後の子ども達を帰るまでの時間、宿題をしたり、おやつを食べたり、一緒に遊んだりして過ごす所です。今回は、毎年夏休み期間中に行っている行事のひとつ「**野外体験学習**」という名の一泊宿泊学習の様子を紹介致します。

滋賀県高島市にあるガリバー青少年旅行村に行き、今年も楽しい活動となりました。



### 編集後記

今回27号では『人と人とのつながり』というテーマを設けて記事作りをしました。記事を書くにあたり「人と人とのつながり」について考えるきっかけとなり、改めて人は一人ではないという事を実感しました。行事や日々の中で利用者さん、地域の方、友達、家族などいろいろな出会いがあり、喜びや楽しみが生まれます。また、記事の中から各事業所の様々なつながりが伝わったのではないのでしょうか。さくらだよりを通じて多くの方とつながっている事を、嬉しく、感謝しております。 広報委員 中川外志美